

会 報

理 事 会 報 告

(平成30年度第1回)

日 時 平成30年6月22日 午後3時5分～4時35分
 場 所 大阪国際会議場10階1001会議室
 出 欠 出席：理事（35名中30名）藤田明理事長、永井・門田・齋藤常務理事，大崎・藤兼・高橋弘毅・阿彦・三木・猪狩・尾形・加藤・小山・高橋典明・船山・御手洗・菊地・藤村・山本・小川・長谷川好規・鈴木・田中・露口・松本・磯部・西井・森高・藤田次郎・中西理事，計30名。坪井・長谷川直樹監事。佐々木委員長。
 欠席により委任状（5名）：須田・権・新實・一山・迎理事。

議 案

- 第1号議案 平成29年度事業報告
- 第2号議案 平成29年度決算報告，監査報告
- 第3号議案 平成30年度事業計画
- 第4号議案 平成30年度予算
- 第5号議案 第96回日本結核病学会総会会長の推薦
- 第6号議案 名誉会員・功労会員の推薦
- 第7号議案 今村賞・研究奨励賞の授賞候補（学会賞選考委員会）
- 第8号議案 学会名変更について
- 第9号議案 委員会報告
- 第10号議案 その他

齋藤常務理事より会の成立が宣言され，藤田明理事長の議長により開始。物故会員への黙禱。

（理事長）一般社団法人法により議事録の作成が必要ですが，定款第36条により「理事会に出席した理事長及び監事が署名又は記名押印しなければならない」と規定されておりますので，監事の坪井知正先生・長谷川直樹先生を議事録署名人にお願いします。

第1号議案 平成29年度事業報告（齋藤常務理事）

平成29年度の年度末会員数は4,218名。会誌は第93巻第6号まで発行。第92巻（第1～12号）の原著数は22篇，毎月の発行部数は3,600部。

支部報告の特記事項

北海道支部：結核談話会を札幌市と共催で実施している。

東北支部：4月から支部事務局を宮城県結核予防会へ移設した。

関東支部：初期研修医プログラムを継続して行っている。

北陸支部：結核研修会を積極的に申請している。

東海支部：結核病主体のセミナーを開催している。支部会費を廃止した。学会開催の経費が厳しい状況になっている。開催形式を呼吸器学会と相談して検討している。

中国四国支部：年1回，地方会前日，エキスパート向けにテーマを検討して支部研究会を開催している。学会活性化のため，会長賞を若手参加者に授与している。

九州支部：結核に特化した特別プログラムは実施していない。

支部活動状況報告

北海道支部（大崎支部長）

第68回（日本呼吸器学会北海道地方会と合同開催）：平成30年2月24日 辻忠克会長（旭川医療センター），札幌市教育文化会館。

東北支部（阿彦支部長）

第135回：平成29年9月9日 武内健一会長（岩手県予防医学協会），岩手県民情報交流センター。第136回：平成30年3月3日 阿部修一会長（山形県立中央病院），ヤマコーホール。いずれも日本呼吸器学会東北地方会と合同開催。

関東支部（尾形支部長）

第172回：平成29年9月2日 船山康則会長（筑波学園病院），つくば国際会議場。第173回：平成30年2月17日 猪狩英俊会長（千葉大学医学部附属病院），秋葉原コンベンションホール。いずれも日本呼吸器学会関東地方会と合同開催。

北陸支部（藤村支部長）

第90回：平成29年5月27・28日 菊地利明会長（新潟大学医学部），新潟医療人育成センター。第91回：平成29年11月11・12日 清水淳三会長（北陸中央病院），富山大学医薬イノベーションセンター日医工オーデトリウム。日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会・日本サルコイドーシス学会と合同開催。

東海支部（長谷川支部長）

第129回：平成29年5月27・28日 樋田豊明会長（愛知県がんセンター中央病院），愛知県がんセンター中央病院。第130回：平成29年11月11・12日 高尾仁二会長（三重大学大学院），三重県医師会館。いずれも日本呼吸器学会，日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催。

近畿支部（一山支部長欠席）

第119回：平成29年7月8日 松本智成会長（結核予防会大阪府支部大阪病院），大阪国際交流センター。第120回：平成29年12月16日 中川和彦会長（近畿大学），大阪国際交流センター。いずれも日本呼吸器学会と合同開催。

中国四国支部（磯部支部長）

第11回研究会：平成29年10月27日 TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅。第68回支部学会（日本呼吸器学会，日本呼吸器内視鏡学会と合同開催）：平成29年10月28日 山岡直樹会長（吉島病院），広島大学東千田未来創生センター。

九州支部（藤田次郎支部長）

第79回（日本呼吸器学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催）：平成29年9月22・23日 宮崎英士会長（大分大学），別府国際コンベンションセンター。第80回（日本呼吸器学会と合同開催）：平成30年3月10日 福島喜代康会長（長崎原爆諫早病院），長崎ブリックホール。

第2号議案 平成29年度決算報告，監査報告

第92回日本結核病学会総会収支決算（承認された。）

平成29年度日本結核病学会収支決算（承認された。）

事業年度を3月から4月へ変更したため，平成29年度は1カ月多い，13カ月決算であった。正味財産期末残高は前期末比23万円減少したが，1億2149万円となり，学会財政は健全性を維持。

監事講評（坪井知正監事・長谷川直樹監事）

監事2名により4月27日，平成29年度会計報告書の監査を行い，適正かつ正確であると確認した。

①法人化の後，支部会計は本部会計に組み込んでいる。原則として，支部事務局の住所は支部長の所属施設としている。何らかの事情で支部長の所属施設に事務局を置くことができず，支部長の所属施設以外のコンベンション等に支部事務局を置いている場合には支障が生じる。コンベンション会社等が会員の個人情報データである会員名簿を管理することは，会員データを営業活動に使用することになるため問題である。各支部の通帳管理をコンベンション会社等に預けることは問題である。支部長施設に事務局住所を置けない場合は，学会本部事務所の

登記住所へ支部事務所をご変更いただく。

②平成29年理事会「総会申し合せ」を平成29年に定めた。これに準じて，地方会についても予算書，会計報告書を支部理事会，学会本部事務局へお送りいただく。

（理事長）監事からのご指摘を踏まえ，支部長会議の設置を後ほど提案する。各支部によって状況が違うので，支部長の状況をご報告いただいたうえで支部運営を進めていく。

第3号議案 平成30年度事業計画北海道支部（大崎支部長）

第69回：平成31年2月23日(土) 高橋弘毅会長（札幌医科大学），札幌市教育文化会館。日本呼吸器学会北海道地方会と合同開催。

東北支部（阿彦支部長）

第137回：平成30年9月8日(土) 山田充啓会長（東北大学大学院），フォレスト仙台。日本呼吸器学会東北地方会と合同開催。

関東支部（尾形支部長）

第174回：平成30年9月1日(土) 佐々木結花会長（結核予防会複十字病院），京王プラザホテル。第175回：平成31年2月23日(土) 浅野浩一郎会長（東海大学），秋葉原コンベンションホール。いずれも日本呼吸器学会関東地方会と合同開催。

北陸支部（藤村支部長）

第92回：平成30年6月9日(土)・10日(日) 北俊之会長（金沢医療センター），金沢大学医学部。

東海支部（長谷川支部長）

第131回：平成30年5月26日(土)・27日(日) 山本雅史会長（名古屋掖済会病院），名古屋市中企業振興会館。第132回：平成30年11月17日(土)・18日(日) 早川啓史会長（国立病院機構天竜病院），浜北文化センター。いずれも日本呼吸器学会，日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催。

近畿支部（一山支部長欠席）

第121回：平成30年7月7日(土) 富岡洋海会長（神戸市立医療センター西市民病院），シーサイドホテル舞子ビラ神戸。第122回：平成30年12月8日(土) 吉川雅則会長（奈良県立医科大学），奈良春日野国際フォーラム。いずれも日本呼吸器学会近畿地方会との合同開催。

中国四国支部（磯部支部長）

第12回研究会：平成30年12月14日 高松赤十字病院中央診療棟。第69回支部学会（日本呼吸器学会，日本呼吸器内視鏡学会と合同開催）：平成30年12月15日 山本晃義会長（高松赤十字病院），サンポートホール高松かがわ国際会議場。

九州支部（藤田次郎支部長）

第81回：平成30年10月5日(金)・6日(土) 柳原克紀会長(長崎大学病院), 長崎ブリックホール。第82回：平成31年3月16日(土) 伊井敏彦会長(国立病院機構宮崎東病院), 宮崎市民プラザ。日本呼吸器学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会と合同開催。

第94回日本結核病学会総会

会長：門田 淳一(大分大学医学部)

会期：2019年6月7日(金)・8日(土)

会場：iichiko 総合文化センター, ホテル日航大分オアシスタワー

テーマ：「抗酸菌感染症の継往開来—西洋医学発祥の地から次世代に向けて」

第94回総会プログラム委員会を平成30年6月22日に開催した。遠方からの参加者の交通の便を考慮し、総会2日目の閉会時間を午後2時30分、ICD講習会も午後4時半に設定している。

第95回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会

会長：藤田明(東京都保健医療公社多摩南部地域病院)

会期：2020年6月11日(木)・12日(金)

会場：横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)

テーマ：「Change and Challenge—結核ゼロへの道と日常化する非結核性抗酸菌症へのアプローチ」

第95回から学会名改称となる。テーマ、演題等の提案があれば、会長へご連絡いただきたい。

第4号議案 平成30年度予算

(承認された。)

第5号議案 第96回日本結核病学会総会会長の推薦

第96回(2021年)会長については推薦委員会で検討した結果、小川賢二先生(国立病院機構東名古屋病院)を理事会へ推薦する。(承認された。)

第6号議案 名誉会員・功労会員の推薦

名誉会員・功労会員候補について承認された。

名誉会員：金澤 實(関東), 倉澤卓也(京都), 菅 守隆(九州), 徳田 均(関東), 富岡治明(中国), 豊田恵美子(関東), 渡辺 彰(東北), 和田雅子(関東)

功労会員：石崎武志(北陸), 沖本二郎(中国), 菊池功次(関東), 塩谷隆信(東北), 杉山幸比古(関東), 梅博久(北陸), 藤村政樹(北陸)

第7号議案 今村賞・研究奨励賞の授賞候補

学会賞選考委員会より推薦され、下記候補者が承認されている。

平成29年度 今村賞授賞候補

・阿部達也(東北医科薬科大学若林病院)：原著「結核

病床をもたない一般病院環境における職員の結核菌曝露リスク～インタフェロン γ 遊離試験陽性率を用いた検証～」(Vol.90 No.9)

・御手洗聡(結核予防会結核研究所)：原著「三種病原体等に相当する結核菌(超多剤耐性結核菌)の同定検査に関する外部精度評価」(Vol.91 No.11-12)

平成29年度 研究奨励賞候補

・津田侑子(大阪市保健所)：原著「大阪市における多剤耐性肺結核患者の背景および治療成績と服薬支援」(Vol.92 No.7)

・泉 清彦(結核予防会結核研究所)：原著「結核接触者健診における社会ネットワーク分析の活用」(Vol.92 No.1)

・山中友美絵(東京慈恵会医科大学第三病院)：原著「イソニアジド単独耐性肺結核症の臨床的特徴と培養陰性化日数の検討」(Vol.92 No.8)

第8号議案 学会名変更について

新法人名：一般社団法人 日本結核・非結核性抗酸菌症学会

新英語名：The Japanese Society for Tuberculosis and Non-tuberculous Mycobacteriosis

ロゴ： JSTB(変更なし)

2017年10月12日理事会で承認された学会名の変更については、2020年1月1日付とする。本学会が加盟している日本医学会連合にも報告済みである。2020年1月1日以降開催される地方会は、新学会名で開催することとする。(承認された。)以上を、2018年6月22日開催の社員総会へ提案する。

第9号議案 委員会報告

1. 編集委員会(永井委員長)

①地方会抄録の学会誌掲載について：学会誌に地方会抄録のうち、結核の演題を1～5題掲載している。地方会プログラムは学会ホームページに全頁掲載しているが、今後も地方会会長から地方会抄録の掲載について依頼があった場合には学会誌に掲載することを再確認した。

②総会抄録号の発行時期：原則として3月号に固定していただきたい。

③学会誌の発行回数について：投稿数平均ページ数が減っている。ページ数の少ない学会誌を毎月発行するより隔月にしてはどうか。秋の理事会で決定したいので、それまでにお考えいただきたい。

④紙媒体廃止の時期について：理事会決定しているが実施時期が未定のため、秋の理事会にはお決めいただきたい。

⑤学会名変更後の学会誌タイトルについて：編集委員

会・常務理事会で討議の結果、学会名変更後の学会誌名は今のままで漢字「結核」、ローマ字で「Kekkaku」とする。学会誌名は変更しない。学会誌名に併記して「日本結核・非結核性抗酸菌症学会誌」とする。

⑥投稿者の会員規程について：著者全員が学会員というのは難しい。Correspondence authorが学会員であれば、投稿を認めることとする。(承認された。)

⑦英文投稿が可能な ScholarOne オンライン査読システムに変更する方向。費用がかかるので、秋の理事会で図る。

2. 治療委員会 (齋藤委員長)

①平成30年1月、学会誌、学会ホームページに委員会報告「ピラジナミドを含んだ治療の80歳以上への適応について」「ベダキリンの使用について」「『結核医療の基準』の改訂—2018年」を掲載した。

②抗結核薬の副作用に関する指針を作成する。国立国際医療研究センター、公立陶生病院、国立病院機構茨城東病院による多施設共同研究の結果について、第93回総会において「結核治療中に認められた白血球数減少症についての多施設共同研究」(座長：近藤康博 演者：森野英里子)が特別報告された。論文掲載後、「抗結核薬による白血球数減少とその対策」について指針を発刊する予定。「皮疹、発熱」の指針の策定を、結核療法研究協議会との共同研究をもとにして進める。

③MDRTB、肺非結核性抗酸菌症治療に必要な薬剤の公知申請：社会保険委員会へ協力する形で進める。

④デラマニド適格性確認システムの運用状況について：2014年9月～2017年2月28日の登録症例は152例、適正135例、不適正17例。このデータをまとめて論文化し、ERJへ投稿予定。

⑤平成30年1月19日に多剤耐性肺結核を適応症として製造販売承認を取得したベダキリンの適格性確認システムの運用開始について：現在、学会とヤンセンファーマ社との間で契約を進めている。審査員(齋藤、吉山、露口、永井)を含め、既存のデラマニド適格性確認システムを利用して運用する予定。

⑥社会保険委員会、治療委員会の合同で、平成29年10月20日にエンビオマイシン(EVM)の継続販売を厚生労働省結核感染症課へ要望した。非結核性抗酸菌症の疫学を把握するため、感染症法に基づく医師の届出についても要望した。

⑦田辺三菱製薬よりニッパスカルシウム錠の販売を中止するが、顆粒剤の供給は継続するとの連絡があった(平成29年10月19日)。

3. 社会保険委員会 (佐々木委員長)

①平成30年度改正(学会要望提出)

概要：2016年5月に内保連から募集要項が発表され、

同年10月23日に提出。同年12月に内保連内で、呼吸器領域、感染症領域の2分野で会合を開き、内保連理事よりヒアリングを受け、内保連推薦順位が決定された。その後ヒアリング結果を加え再度提出し、2017年7月に厚生労働省からヒアリングを受けた。

提出項目は以下のとおりである。各項目につき、指定用紙、プレゼンテーション用資料、文献を提出し、厚生労働省内部で協議を行っていただけるようヒアリング日に別添資料を作成した。

〔学会要望項目〕

1) 既・適応拡大：難病等特別入院診療加算の適応拡大。結核病棟における栄養サポートチーム加算適応拡大。結核病棟における呼吸ケアチーム加算適応拡大。多剤耐性結核手術における感染防止加算の増額。

2) 新設：感染性結核患者陰圧区域外検査施行時感染防止加算新設。

3) 薬剤：AMK, KM, STFX(以上NTM), MFLX(TBC), LZD(MDRTB), DLM(MDRTB;今はMDRPTB)

②学会別ヒアリング(2017年7月28日)：難病等特別入院診療加算の適応拡大、結核病棟における栄養サポートチーム加算適応拡大について既提出書類、別添え資料を用い説明を行った。

③決定：今回は診療報酬上、当委員会が提案した内容について認められた項目はなかった。公知申請は断念した。結核病床の維持が、医療費の削減により危機に瀕している。地域罹患率により対応が異なるため、社会保険委員会内で意見提出してまとめ、秋の理事会に提出させていただく。

4. 教育・用語委員会 (藤田次郎委員長)

「新しい結核用語事典」2008年4月に発行されたものの改訂を進めている。10年前は書籍で発行したが、今回は学会ホームページ上、検索可能なWEB版で用語事典を作成する。原稿が揃いつつあるので近日中、改訂は完了する。

5. 予防委員会 (加藤委員長)

LTBI治療レジメンについて：前委員長からの継続審議事項である。1月WHOから新しい見解がでたので、今後治療委員会と共同でHRをLTBI治療レジメンに加える方向で検討を進め、「潜在性結核感染症治療指針」の改訂を行いたい。

6. エキスパート委員会 (阿彦委員長)

①登録・抗酸菌症エキスパート：新規申請：39名。認定・抗酸菌症エキスパート：新規申請：3名。

エキスパートの申請数は増えていない。総会「エキスパートセミナー」研修単位を引き上げた。総会に1回出席すれば資格取得ができるようにした。「抗酸菌症エキスパート制度施行細則 平成29年10月12日改訂」：1

研修受講で10単位（総会会期中30単位まで。加算可能）。

②認定制度審議委員会が認めた講習会・セミナーについて：半日で5単位付与している。1.5～2時間は3単位、または2単位付与を検討してはどうかという意見があり、次回理事会に向け検討する。

③エキスパートセミナーについて：今後の総会時のセミナーには、呼吸リハビリテーション関係の演題も加えてほしいという意見があった。

④地域DOTSの手引きについて：結核病床の廃止が進み、本年3月に厚生労働省から、感染症病床（空気感染防止対応）でも結核患者を入院させてよいという通知があった。結核患者の治療成功に向けては、感染症病床のICNとの連携も重要となることから、地域DOTSのICN向け手引きの作成に向けて、当委員会の下にワーキンググループ（WG）を置き検討を始めたい。次の理事会でWG委員を推薦する。

7. 非結核性抗酸菌症対策委員会（小川委員長）

①2008年に3件、2012年1件、委員会報告が公表されている。2017年BTS/ガイドラインが改訂された。ATS/IDSAガイドラインも今後発表される予定。これを受け、委員会報告の改訂作業を始めることとした。治療に関しては、海外では常識になりつつある間欠療法をどのように取り入れていくか等についてのコメントをだす。

②EBの副作用について訴訟もあったため、日本眼科学会の専門の先生と議論のうえ、本学会の考え方をまとめ、委員会報告に入れていく。

8. 抗酸菌検査法検討委員会（御手洗委員長）

①カナマイシンの薬剤感受性試験の論文が準備できたので投稿する。

②「抗酸菌検査ガイド」非結核性抗酸菌の感受性試験について改訂する。

③結核の経過観察：液体培地を利用した。経過観察の基準を考えていく。治療委員会と相談して進めていく。非結核性抗酸菌の菌種が増えている。

9. 将来計画委員会（門田委員長）

①休止中の国際交流委員会を今後、活動再開する方向で検討する。国際交流委員会の活動としては、海外学術団体と連携してセミナーの企画を提案する、総会時の招請講演の演者の推薦を行っていただく、などの意見があった。

②総会時、会長の招く招請講演については、総会費とは別枠で、招請講演にかかる費用は全額学会本部負担として、学会本部の会員会費からの出納にすると招請講演を企画しやすくなる、という意見があった。

③学会名変更後の方向性について：現在ある委員会の名称変更・再編・統合・拡充等、委員会のあり方が今後問題となる。委員会規程の改訂が必要となる。各委員会

委員長は、学会名の変更日に向けてご検討いただきたい。

④会員数の増加について：2011年～2017年にかけて、会員は1,000名増加している。どの職種が増えているのかはわからない。職種別に会員数の増加対策を勧めるために、可能であれば職種別会員数に関するデータをだしていただく。呼吸器内科医が増えれば、本会の会員も増加すると考えられる。

⑤抗酸菌症エキスパート制度について：日本感染症学会・日本化学療法学会・日本環境感染症学会・日本臨床微生物学会と連携して、取り組んでいく。

10. 認定制度委員会（大崎委員長）

結核・抗酸菌症認定医 新規：98名，更新：124名（延長認定15名）

結核・抗酸菌症指導医 新規：40名，更新：107名（延長認定13名）

認定医・指導医の申請について「生涯教育セミナー」受講を必須とする。結核予防会研修コースが4種類あり、取得単位としては50点あるいは80点を取得できるため、本研修コースを受講すれば申請単位に足りるが、単位が足りている場合でも生涯教育セミナーの受講を必須とする。2年間経過措置とするので、2020年総会以降、結核予防会研修コースにより申請単位が足りている場合でも、申請者は生涯教育セミナーの受講を必須とする。（承認された。）

11. ホームページ委員会（田中委員長）

現状を報告するので、皆様からご意見を賜りたい。

①地方会HPについて：メンテナンスや費用などの問題もあり地方会HPを作成していない支部もあるが、今後は各支部のHPを結核病学会の学会HP内に作成し、各地方会が使用できる環境を整えることを理事会に提案する。支部より希望があれば、学会ホームページ内に無料で作成する（これまでも全支部のプログラム集の全頁を会員専用サイトへ掲載している）。例えば、地方会のポスターや地方会プログラムをダウンロードできるようにする、等。既に各地方会HPを呼吸器学会の地方会と合同で立ち上げている支部についてはリンクを貼る、などの使い方が考えられる。既に呼吸器学会と合同で独自の地方会HPを立ち上げ、地方会プログラムを地方会HPに掲載し、紙媒体での配布を中止した支部もいくつかある。また、総会HP、関東支部地方会HP、近畿支部地方会HPは、学会HP内の既成のデザインをリニューアルして、費用をかけずに使用している。作業は結核病学会が契約している技術者が行い、掲載内容はコンベンション会社・学会事務局の双方で確認し運営している。

②前回の理事会で、学会ホームページ内にパブリックコメントを加えることが決定した。詳細については以下を参照。学会員専用ページに設置する／個々の患者につ

いての問い合わせには対応しない／意見募集中は学会ニュースに告知する／主に委員会からのパブコメの募集になることが多いと考えられるが、集まった意見は当該委員長へ送信する。

③教育・用語委員会が用語事典のリニューアルを進めているので、会員が使いやすい方法を検討しつつ、学会HP内に掲載したい。

④演題登録システムの今後について：「UMINシステムが2019年3月31日をもって停止するので、今後は各学会で対応するように」との連絡があった。UMINシステム廃止後の対応についてHP委員会で討議するのが妥当かわからないが、HP委員会としての意見をまとめた。

- ・呼吸器学会は杏林舎のシステムを使用している。本会より杏林舎に見積りを依頼したところ、システム構築に約30万円。各総会・各地方会で使用するごとに約20万円。プログラムの印刷と送付代が別途必要とのことであった。

- ・杏林舎のシステムを使用するか、コンベンション会社のシステムを使用するか、既存のシステムを使用しない（各会の事務局が演題登録を受け付けてプログラムを製作する）という選択肢がある。

- ・各地方会は呼吸器学会や気管支学会などの関連学会と共催で開催されることも多く、それぞれの地方の事情も大きく異なる。HP委員会としては、演題登録システムとしてどのシステムを使用するかは、各総会・各地方会会長に一任することを理事会に提案する。

（理事長）学会としての大きな問題をホームページ委員会より数多くご提案いただいた。各支部によりご意見もあると思われるので、今後調整をしていく。

12. 倫理委員会（中西委員長）

①「医学研究の利益相反に関する指針」の改訂を報告する。

②タバコ企業から広告・寄付・後援を受けないよう、学会開催においてご注意いただくことを再確認した。

③企業所属の学会発表は、よしとする。COIを開示いただき、「科学的知見であり、宣伝ではない」と確認いただきたい。

13. ガイドライン施行委員会（長谷川好規委員長）

①今後の結核病学会で作成される診療ガイドラインは、Minds診療ガイドライン作成マニュアルに準拠して作成する方向性が説明され、承認された。

②診療ガイドライン作成にあたっての全体像、作成に向けての必要な準備、作成手順について説明がなされた。

③診療ガイドライン作成にとりかかる分野についての議論がなされ、まずは結核症を対象とすることとし、非結核性抗酸菌症は今回作成にとりかかるガイドラインには含めない方針が確認された。

④ガイドライン作成にあたって、ガイドライン統括委員会、ガイドライン作成グループ、システマティック・レビュー（SR）チームを組織する必要がある（資料参照）ことが確認され、ガイドライン統括委員会は、本ガイドライン施行委員会とは別に組織されることが確認され、承認された。

⑤ガイドライン統括委員会の構成メンバーについての議論がなされ、以下の先生方が候補者としてリストアップされた。猪狩英俊：委員長。進藤有一郎：委員長補佐。斎藤武文：治療委員会より。加藤誠也：予防委員会より。徳永 修，御手洗聡，近藤康博，菊地利明。画像診断に実績のある委員の必要性が議論され、岡田文人先生（大分大学）に打診することが確認された。

⑥今後はガイドライン統括委員長となる猪狩英俊先生を中心に、ガイドライン統括委員を決定する手続きを進め、吉田雅博先生（国際医療福祉大学）の協力も要請しつつガイドライン作成を進めていくことが確認された。

第10号議案

①理事・支部長選挙について：「代議員および役員選挙施行細則」の改訂，代議員・役員任期に関する細則（2018年6月22日制定）について。（承認された。）選挙日程については、学会誌（Vol.93 No.7掲載予定）に会告を掲載する。今年度より理事選挙終了後に、支部長選挙を行うことになる。

②「名誉会員並びに功労会員推薦内規」の基準日について：基準日を満65歳以上（3月31日現在）とする。（承認された。）

③支部長会議（案）について：支部長会議規約（案）が承認され、支部長会議を設置することが決定した。秋の理事会の前に「支部長会議」を開催することとする。各支部の課題、運営について意見をまとめ、理事会に報告する。

④国際交流委員会（休止中）について：国際交流委員会は現在休止中であるが、平成25年理事会議事録では、「ツベルクリン反応の国際標準化」の他、現在結核対策の課題となっている「入国時の外国人労働者・学生の結核持ち込み」がテーマになっていた。ツ反については現在その意義が低くなっており、入国前健診に関して、現在は国レベルで話が進んでいる。国際交流委員会は、海外の学術団体との連携に関する事項を担当とし、今後活動再開する。（承認された。）今後については理事から意見をいただく。将来計画委員会でも検討する。

⑤「生物学的製剤と呼吸器疾患・診療の手引き」の改訂版作成について：日本呼吸器学会の「手引き」改訂版については、渡辺彰先生と松本智成先生にお願いすることを提案する。（承認された。）

⑥第154回日本医学会シンポジウムテーマ（案）：本年12月開催予定の第154回日本医学会シンポジウムのテーマ候補について常務理事会で検討した結果、「多剤耐性結核への新たなる挑戦—その基礎と臨床—について」を本学会から応募したが、34学会から57案の応募があり、最終的に「AIと医療の現状と問題点」（仮題）が採択された。

⑦日本医学会連合への会費について：「基本料金5万円+（50円に会員数を掛けた額）」を振り込む予定。

秋の第2回理事会は11月15日(木)、グランドプリンスホテル高輪で開催する。

以上で理事会は終了。

社員総会報告

（一般社団法人日本結核病学会 代議員会）

日 時 平成30年6月22日午後4時55分～6時15分
場 所 大阪国際会議場10階1003会議室
出 欠 代議員（216名中名）出席82名，委任状78名

第10号議案 その他

議 案

第1号議案 平成29年度事業報告
第2号議案 平成29年度決算報告，監査報告
第3号議案 平成30年度事業計画
第4号議案 平成30年度予算
第5号議案 第96回日本結核病学会総会会長の推薦
第6号議案 名誉会員・功労会員の推薦
第7号議案 今村賞・研究奨励賞の受賞候補（学会賞選考委員会）
第8号議案 学会名変更について
第9号議案 委員会報告

鈴木会長挨拶のあと，齋藤常務理事が会の成立を宣言し，藤田明理事長の議長により進行。会員逝去の報告と黙禱。定款の規定により，議事録署名人として坪井知正監事，長谷川直樹監事が選任された。

第1号議案から第10号議案については理事会同様に進行した。「第8号議案 学会名変更について」も承認された。

新法人名：一般社団法人 日本結核・非結核性抗酸菌症学会

新英語名：The Japanese Society for Tuberculosis and Non-tuberculous Mycobacteriosis

以上により社員総会（代議員会）は閉会。

